

2021年度 理事長所信

未来共創

～理想の未来のために一滴入魂～

公益社団法人春日部青年会議所

第57代 理事長 本田 洋明

【はじめに】

青年会議所のはじまりは、戦後間もない頃、荒廃した日本の危機的状況を打開すべく、

「新日本の再建は我々青年の仕事である。」

と立ち上がった高き志を持つ青年達が相集い、青年会議所運動という地域を照らす燈火が日本各地へと広がりました。春日部青年会議所におきましては1965年に創立し、愛する郷土の発展と人間性の向上を目的に、長きに亘って時代に即した多くの青年会議所運動を、愛する地域に向けて発信して参りました。春日部青年会議所が昨年55周年を迎えることができたのも、組織のバトンを、地域の未来のためにとつなぎ続けていただきました先輩諸氏のご尽力によるものであり、深く感謝を申し上げます。そして、これまでお力添えをいただきました地域の関係諸氏諸団体、行政をはじめとするすべての皆様に深く感謝を申し上げます。

2020年、全世界を震撼させた新型コロナウイルス感染症の拡大により、日本国内も深刻な影響を今なお受け続けており、私達の行う青年会議所運動にも多大なる影響を与えました。パンデミックという未曾有の事態から、私達のそれまで当たり前と思っていた暮らしは一変し、「三密」といった国の示す新たな生活様式は、私達の豊かな暮らしに必要な不可欠な経済活動、人と人とのコミュニケーション、さらには、これからの未来を担う子ども達の健全な成長に対して、長期的に見てどのように影響してくるのか、強く懸念がされている状況です。

また、今や世界全体が、深刻な気候変動や環境汚染、貧困、格差など、様々な問題や課題を抱えており、その対応が急務となっています。2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継となる、地球上の誰一人として取り残さないことを誓うSDGs（国連で採択された、2030年までに達成すべき国際的な目標）について、日本青年会議所が2019年より日本で最も取り組む組織として推進を掲げました。「環境」「経済」「社会」についての17のゴール（未来像）を設定するこのSDGsは、一人ひとりの小さな行動の積み重ねによって、世界を変える大きな力にしていこうというものです。

SDGs も、その名称自体は徐々に世間に浸透し始め、ただ知識や理念を広める段階から、具体的な実践が求められる時期に入っています。

このように未来が予測困難であり、かつ社会全体で解決していかなければならない大きな問題や課題に直面する中、一人ひとりの意識や行動の変容がより一層求められる時代に突入しています。このような時代であるからこそ、改めて心身ともに充実期である私達青年が率先して、理想の未来のために行動していく必要があると考えます。私たち春日部青年会議所は、創立当初の先輩諸氏と志を同じくし、愛する地域のために何ができるのか、活力あふれる青年組織としてその社会的責任を受け止め、今後も市民の意識に働きかける力強い運動を展開していく組織であり続けなければなりません。

未来は、私達が生きる「今」から続く延長線上にしかありません。今まで誰も経験したことがないような困難な状況に遭遇したとしても、一人ひとりが互いに共感・共助し合い、より良い未来を共創できる。そんな理想の未来へとつなげていくために、「今」を生きる私たちが、一人ひとりの持つ多様性に満ちた英知と勇気と情熱を結集させ、魂を込めてその手の中にあるバトンを、力強く未来へとつないでいきましょう。

【一人ひとりの当事者意識を醸成し、共に地域の明るい未来を創り出そう】

青年会議所は、「まち」のための運動体ではありますが、まちづくりはひとつづくりと言われるように、「まち」を構成しているのは紛れもなくそこで暮らす「ひと」であります。そのため、地域に住まう人々の意識にいかに働きかける運動を展開できるかというのは、愛する郷土の発展を目的に掲げる春日部青年会議所にとっても大きな使命のひとつであります。

それでは、どのような「まち」が目指すべき理想といえるのでしょうか。近年頻発する自然災害による甚大な被害や、新型コロナウイルス感染症拡大のような何が起きるか分からない時代の中で、地域に住まう人々が「他人ごと」を「自分ごと」ととらえ、共感し、共助し合い、共創できる「まち」こそが、たとえ大きな問題や課題に直面したとしても、解決の糸口を共に見つけ出し、生き活きと笑顔に溢れた理想的な「まち」へとつながっていくと考えます。

そのような地域にしていくために、まずは地域や社会全体の問題について共感し、自分ごととして捉え行動へと移していく、そんな当事者意識を持って行動できる人を一人でもこの地域に多く増やしていくことが必要です。

本年は私達の活動エリアにおいて、地域の未来を占うといって過言でない大切な選挙も開催される予定です。地域に住まう一人ひとりが、与えられた大切な権利を行使し、義務を果たしていくという当事者意識の醸成は、必ずや明るい地域の未来を創造することにつながります。一人ひとりの当事者意識を醸成し、共に未来を切り拓く、そんな人々に溢れた活力ある地域にしていくために、人々の意識へ働きかける青年会議所運動に取り組んで参りましょう。

【地域の未来を担う子ども達のために、たくましい成長の機会を創り出そう】

今の子ども達が将来大人になったときに、未来がどのような技術に囲まれ、どのような価値観が台頭する時代となっているのでしょうか。A I の人工知能が人間の能力を追い越す時代が到来するという見解も耳にしますが、子ども達にとっては、そのような予測困難な未来においても活躍し、たくましく生き抜いていかなければなりません。

子ども達の未来においては、新たなものに興味・関心を持ち、柔軟に思考し、挑戦する。楽しむ。そういった力の原動力となる「知的」好奇心を育むことが重要な時代となると考えます。なぜなら、多くの職業や業務がA I に取って代わられたとしても、新たな分野の労働需要が生まれる可能性や、A I では代替することができないような人間ならではの仕事というものが残っていく可能性は十分に高いなか、知的好奇心は、機械にはなく人間にのみ与えられた大切な力であり、新たな問題に直面したとしても解決へと導くことができる重要な能力であると考えられるからです。

知的好奇心を育む上で、年齢的に遅すぎるということはありませんが、脳の成長時期から考えて、子どもの時期に育むことが最も有効とも言われています。だからこそ今、予測困難な未来を生き抜かなければならない子ども達のために、たくましい成長の機会を創り出して参りましょう。この子ども達の一人ひとりの成長こそが、地域の未来における新しい可能性や新しい価値を創り出すことに、必ずやつながっていくことでしょう。

【世界の友達に会いに共に国境を越え、感謝の気持ちを伝えよう】

青年会議所の三信条といわれる「奉仕」「修練」「友情」のうちのひとつである「友情」は、「世界との友情」を意味していると言われていますが、春日部青年会議所には、国境を越えて友情を育むことができる国際交流事業として、パサディナホームステイプログラムがあります。姉妹青年会議所であるアメリカ合衆国カリフォルニア州パサディナ青年会議所と、毎年地域の青少年を連れて開催するこのホームステイ事業は、「両J C間の友情」と「地域社会の国際化」を目的に、36年という永い年月に亘り脈々と受け継がれてきました。

このプログラムには、長い歴史によって育まれてきた素晴らしい友情の下地が存在し、初対面であったとしても、昔ながらの友達と再会したかのような錯覚に陥るほどの、不思議な魅力が秘められております。この魅力的な事業の中で、英語が上手く話せるかどうかということはさして重要ではなく、多くのメンバーと青少年が、これまで他では得がたい心の通った交流の中から生まれる感動とともに、貴重な国際経験を培ってきました。ICT（情報通信技術）の発達により、国境を越えたビジネスやコミュニケーションの方法も大きく変容し、今後もさらに急激なスピードで進化していくことが予想されます。そのような中で、未来を背負う青少年においては、大切な成長期に、異なる歴史や文化を持った相手と濃密な時間を共に過ごし、相手に感謝の気持ちや言葉を交わす中で、様々な価値観に

触れ、国際的な視野を広げてほしいと考えます。それにより、グローバル化がさらに進んだ未来においても、国籍や文化の違いを越えて、共に力を合わせ活躍できる人々をこの地域により多く輩出していくことへつながります。

このようなかけがえのない経験を積むことができるこのプログラムに、本年も多くのメンバーと青少年でパサディナの地に訪問し、共に友情をわかちあい、感謝の気持ちを伝えて参りましょう。

【会員拡大で新たな仲間を加え、共に地域の明るい未来を創り出そう】

青年会議所の会員拡大は、私達と志を同じくし、地域や他者のために率先して行動できるアクティブシティズンを増やす、最も直接的な市民意識変革運動と言われています。単年度制かつ40歳卒業制を敷く青年会議所においては、組織の新陳代謝が極めて早いゆえに、活力あふれる新しい仲間を迎え入れることで、常に時代に即した力強い青年会議所運動へとつながります。また、青年会議所における「奉仕」と「修練」の機会は、メンバーにとって、リーダーとしての指導力や行動力、人間性の向上や成長に寄与し、この地域や組織を牽引する多くのリーダーを育ててきました。青年会議所にとっての会員拡大は、組織を存続させる目的のみでなく、この地域の未来のために絶対に必要不可欠なのです。

本年も春日部青年会議所に多くの仲間を迎え入れ、青天井と言って過言でない多くの成長の機会に飛び込んでもらいたいと考えます。メンバー同士で共に過ごす時間の中で、生涯付き合いたいと思えるような信頼できる仲間や、成長のための刺激を与えてくれる同世代のライバルが必ずや見つかることでしょう。「人は人で磨かれる」というように、多様性あふれる仲間達と交流し、切磋琢磨し合い、時に意見をぶつけ合い、様々な経験を積んでいくことによって、自身の成長へとつながっていくことは言うまでもありません。その成長へとつながっていくために、加わってくれた新しい仲間に対しては、常に寄り添う気持ちを忘れずに、青年会議所の活動や運動の意義を理解してもらいたいと考えます。メンバー間の血の通った熱い交流や自己成長の機会を創り出し、青年会議所運動の魅力にこれから触れる新たな仲間を一人でも多く迎え入れて参りましょう。

【「例会」という最高の成長と交流の機会を共に創り出そう】

春日部青年会議所の例会は、メンバー全員が一同に介し交流が図れる貴重な場であり、その内容においては、参加したメンバーにとって明日にでもすぐに青年会議所運動や自身の生業、その他の活動にも活かせるような、重要な学びの場でなければなりません。例会に参加するということは、自己を成長させるための絶好の機会であるといえます。

もう既に、私達の生きる現代社会は従来の価値観のみでは通用しない大きな転換期に入っていると考えます。経営の面で見れば、ただ自社の利益を追求すればよいという時代から、SDGsやESG投資（E【環境】S【社会】G【統治】）といった、環境問題や社会問

題に配慮しながらの企業活動を行うことが求められ、経営の中での重要度は格段に増えています。

私達メンバー一人ひとりが例会という機会で、今必要とされる最先端の知識や情報を貪欲に学び、自身の能力やリーダーシップの向上につなげることができれば、青年会議所運動をより力強いものとするができるほか、生業や他の地域活動にも活かしてしていくことで、より魅力的な地域社会の創造へつなげていくことができるでしょう。

そのために、各例会を担当する委員会においてはメンバーの英知を結集し、交流をより深めながら、自身のさらなる成長へつなげられる新しい学びや気づきを得られる例会を共に創り出し、この貴重な機会を最大限に活かして参りましょう。

【未来を見据えて、時代に即した価値ある組織であり続けるために】

新型コロナウイルス拡大により、経済活動は今後も影響を受け続けるといわれ、自然災害による被害も毎年のように頻発しています。さらに、SDGsをはじめ、持続可能性や多様性がキーワードとなっていく新たな価値観の台頭を受けて、私たち春日部青年会議所にとっても時代の変化に常に対応しながら、今後も地域のために力強い運動を展開し続ける組織であり続けなければなりません。そのために、私たちが今一度組織のこれからの未来を見据え、時代に即した価値ある組織として今後も地域にあり続けるために、組織の新たな未来の可能性について、共に考えて参りましょう。

【おわりに】

「未来」という言葉を聞くと、遠い先の話と感じてしまい、自分とは利害関係のない話だと感じてしまうかもしれません。もしくは途方も無さすぎて、行動を起こす前に諦めてしまうかもしれません。

しかし、一人ではできることは限られるかもしれませんが、仲間と力を合わせ、知恵を絞り合い、共に化学反応を起こし、新しい価値観や解決策を共創することができれば、できることの選択肢や可能性は大きく広がっていくと考えます。

一滴の力は弱くても、それを集合させて水流となれば力は徐々に増していき、やがては大河となる。

青年会議所の運動も時に草の根運動的と表現されることがありますが、はじめはたとえ小さな一滴に過ぎなくとも、この一滴に魂を込めて、挑戦し積み重ねていくことこそが、地域のより明るい未来の実現へと着実につながっていくと信じ、私自身、育てていただいた愛する地域と、愛する春日部青年会議所のために全力で1年間職務を全うすべく、役職に徹して参ります。

春日部青年会議所は、愛する地域の未来のために、本年も積極的に運動に取り組んで参ります。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

基本方針

「志」を抱き未来を拓こう

～自己の成長と子ども達の未来の為に～

副理事長 育成室担当 小笠原 拓也

子ども達を取り巻く環境の変化(科学技術の発達や都市化に伴う自然や遊び場の減少など)により、近年の子ども達は多くの情報に囲まれた環境にある為、世の中に対しての知識は増えてきてはいますが、その知識の多くは受け身的なものが多く自ら学ぼうとする意識が低下しているのではないのでしょうか。また、子ども達同士の遊びの方法も変わっていく中で、直接的な人同士の繋がる機会が減少し、子ども達が仲間と共感しあって楽しみ、自分たちで何かを作り出し、友達と遊びに熱中する機会も減少していると感じます。

予測困難な未来において、子ども達が力強く生き抜いていく為には、知的好奇心や遊びの中で社会性を育てていくことが大切であると考えます。

なぜなら、知的好奇心とは、子ども達の「生きる力」つまり、今後社会がいかに変化しようとも自ら考え、主体的に判断し、行動し、課題をより良い方向へと解決する力の源であると考えからです。更に子ども達の遊びの中で、他人との関わりや、共に何かをするという経験を通じて、人と共に社会の中で生きていくうえで必要な知識や行動、すなわち子ども達が社会に出た時のルールを身につけていくことが大切なのではないのでしょうか。

子どもは親の背中を見て育つと言われるように、親自身が楽しんでいる姿を子ども達に見せ、知らない事を知る喜びを感じてもらい、自ら知りたい、学びたいという知的好奇心を育みながら、子ども達同士の遊びの中で社会性を育んでまいりましょう。

そうする事で、予測困難な未来において、子ども達の前に困難な課題があったとしても、自らの力でその課題と向き合い、更には周囲の人とも力を合わせ協力しながら物事を解決へと導いていってくれることでしょう。

青年会議所の宝とも言える新入会員には、青年会議所運動や活動を通しての研鑽から得ることのできる、仲間との絆を感じてもらい、生涯の友とも言える仲間を作り、自らの成長の糧にしてほしいと考えます。

その為に、育成室として新入会員に寄り添いながら、不安や疑問を解消するように努め、青年会議所の魅力を感じてもらい、積極的に運動や活動に参加してもらえるように促してまいりましょう。

「人生の学び舎」とも言える、青年会議所での経験は、今後の自身の財産にもなることでしょう。

本年育成室では、予測困難な時代であるからこそ、子どもたちが輝く未来を創造すると共に、未来の春日部青年会議所の宝である新入会員に、春日部青年会議所の魅力を存分に伝えてまいります。

一年間よろしくお願いいたします。

基本方針

盤石な環境を整え組織を支える

副理事長 総務室担当 並木 勇樹

私たち春日部青年会議所は、「愛する郷土の発展」と「人間性の向上」を理念に掲げ今まで運動を展開して参りました。創始より受け継がれているこの思いを絶やさず、これからも地域から必要とされる組織でなければなりません。メンバー一人ひとり積極的に活動に取り組み、地域の為に運動を展開していく必要があります。その為には、それぞれが与えられた職務と真剣に向き合い取り組める環境が整っていなければなりません。総務室としてその役割を担い、組織の根幹をなすという強い気持ちで会を支えて参ります。

組織で行動するためには、個々の考えを共有しまとめる必要があります。そこで重要になるのが会議の場で、青年会議所には「委員会」や「理事会」といった様々な会議の場が用意されています。その場が有意義なものとなれば、議論される企画はより良いものとなるはずです。その為には、準備をしっかりと行い会議に臨まなければなりません。総務室として、参考となる資料の整理や備品の管理を徹底し、会議をスムーズに行う事が出来るようサポートして参ります。そうする事で活発な雰囲気が生まれ、メンバーの参加意識の向上にも繋がるのではないかと考えます。

また、財務面でのアドバイスや、スケジュールを遵守していただく事も必要です。預ける財産が適切に管理されていない、提出スケジュール通りに進まず事前に資料が確認できない、という不安な状態にならぬよう私たちが環境を整える事で、各委員会は安心してそれぞれの職務に専念する事ができるでしょう。

組織の基礎となり全体を支える事が総務室の重要な役割となります。見えない部分もしっかりと気を配り、縁の下の力持ちとして私たち総務室が率先して行動して参ります。

昨年から続くコロナウイルスの影響は、今もなお社会全体に暗い影を落としています。そのような時だからこそ、青年会議所の力が必要になるのではないのでしょうか。私たちが一致団結し地域の為に課題解決に取り組み、明るい未来を共に創ってまいりましょう。その為に、盤石な環境を整え皆様を支えて参ります。

一年間よろしく願いいたします。

基本方針

一念通天

副理事長 会員室担当 馬場 茂明

56年の歴史と伝統を持つ公益社団法人春日部青年会議所を卒業された多くの先輩方が、各地域のオピニオンリーダーとして活躍されています。

青年会議所が掲げる「奉仕・修練・友情」の3信条は、人間性の向上や自己成長が約束され、今後、地域を背負うリーダーとしての指導力や行動力が身に付くでしょう。

また、春日部青年会議所の会員拡大は、「愛する郷土の発展と人間性の向上」の創始の精神を共有すると共に、今より良い地域の未来を創造し、他者のために率先して行動できるアクティブシティズンを増やす直接的な市民意識変革運動と言われています。

だからこそ、青年会議所にとっての会員拡大は組織を存続させる目的のみでなく、この地域の未来のために絶対に必要不可欠なのです。

2014年に100名を超えていた会員も現在60数名となっており、ピーク時から比べると約30～40%の割合で会員減少が起きている。

会員減少してしまうことで起こりうる一番の問題点には、春日部青年会議所の存続の危機があります。メンバーの会費で各種例会・総会・事業を行なっている春日部青年会議所にとって、会員減少は自分達が思い描いた理想の運動展開を実現していくのに一つの足枷となってしまいます。メンバーの減少が起これば、「人は人で磨かれる」といった人とひとが互いに切磋琢磨していく機会が失われ、自己の成長する場が失われてしまいます。だからこそ、会員を減らしてはならないのです。

そして、40歳までと限られた期間で活動する団体にとって新規会員拡大情報は喉から手が出るほど欲しいものです。地域に眠っている人財の情報を1から掘り起こしていく草の根運動も行なっていく他に、常にアンテナを張り新規情報を収集・集約して参ります。

新規入会したメンバーとの新たな出会いを経て行われる交流は自己成長の機会を創り出し、春日部青年会議所運動の魅力を発信、伝播させる絶好の機会です。常に相手に寄り添う気持ちを忘れずに多くのメンバーを迎え入れていきましょう。

地域の未来には、自分の住まうまちへ興味を持ち、自ら自分達の課題や目標を見つけ、その目標達成の為に努力をする、たくさんのアクティブシティズンの誕生が必要不可欠と考えます。メンバー間の想いのこもった意見交換から生まれる議論は、今まで無意識だったメンバーをアクティブに変えていくことでしょう。

どんな苦難があったとしても、強い決心を持って一心に努力し、会員拡大運動の足を止めることなく、春日部青年会議所の魅力を存分に伝え、新しい価値観や解決策をメンバーと共創し、会員拡大を行なって参ります。一年間よろしくお願いいたします。

一年間よろしくお願いいたします。

基本方針

地域の人と人同士がかかわり合う架け橋になる

～当事者意識で溢れるまちへ～

副理事長 地域室担当 山口 隆顕

私たちが目指す「明るい豊かな社会」とは、自分たちの住まうまちをより良くしていこうと当事者意識を持って率先して行動できる人で溢れている社会です。

なぜならば、当事者意識を持った人たちは自らまちや社会の問題を見つけてより良くしていくためにはどうすればいいのか考え、意見を出し合い、行動します。このような人たちの言葉や行動する姿勢は地域の人たちのお手本となり、多くの人たちを巻き込みながら意識を変えていき、より良い方向へと導いていくことができることでしょう。

しかし昨今、夫婦とその子どもで構成される核家族の増加や単身世帯が増えたこと、また都内へ通勤する世帯や共働きの世帯が増え日中のほとんどは自分たちの住まうまちにいないことにより近所づきあいが減り、地域とかかわる機会が減っていると感じます。地域とかかわる機会が減ることで自分たちの住まうまちへの関心が徐々に薄れ「誰かがやってくれるだろう」という考えを引き起こし、やがては「他人事」という無関心を引き起こすことになってしまいます。

そこで本年地域室では、地域の人と人同士がかかわる機会を提供して参ります。様々な立場の人と交流を図り自分たちの住まうまちや社会の問題を見つけて一緒にになって解決するためにはどうしたらよいのか。そこに集う人たちと一緒に話し合い、意見を交わすことは様々な考え方や価値観に触れることであり、問題意識を共有することに繋がります。人と人同士のかかわり合いの中で共感が芽生え、一緒にになって問題を解決するために行動を起こしたり、お互い助け合いながら困難な状況を乗り越えていくという共助の精神を体得していき、やがてはかかわり合いの機会に触れ続けることで当事者意識が醸成されていくことでしょう。

また本年は、私たちの生活に密接に関係してくる行政のトップを決める重要な選挙が行われます。しかしながら近年は選挙における投票率の低さに直面しております。一人ひとりの一票がこのまちの未来を創るということを知っていただき、まちのことに對して自らかかわることの大切さを感じていただけるよう当事者意識の醸成をして参ります。そうすることで地域の方々が共に創り上げる理想のまちへとつながることでしょう。

結びに、当事者意識とは自分たちの住まうまちや社会の問題に対して「自分には関係がない」という考えから「自分事」へと意識が変わることを差します。その意識で常に満たされている状態が理想に掲げる当事者意識の醸成です。

当事者意識が醸成されることによって自分たちの住まうまちや社会に新たな価値を地域の人同士が共に創りあげていく、「共創」へと導いていけるよう一年間邁進していきます。一年間よろしくお願いいたします。

基本方針

相手を想いやる心のこもった交流の歴史を未来へ

～紡いできた歴史に感謝とともに世界へ旅立とう～

副理事長 国際室担当 平田 洋介

パサディナホームステイプログラムは、パサディナ青年会議所及び春日部青年会議所の両JC間の理解と友情のもと、地域の国際化を目的に始まった国際交流事業です。本プログラムでは、これまで他では得がたい、言葉では表せないほどの感動が得られ地域の国際化に大きく寄与して参りました。それは、両JCが36年という長い年月をかけて紡いできた言葉の壁を越えたお互いが相手を想いやる心のこもった交流の歴史があるからこそです。そのような、両青年会議所が築いてきた、決して当たり前ではない相手を想いやる交流の歴史に、改めて深く感謝申し上げます。

近年、インターネットの普及に伴い、他国の様々な情報を簡単に知ることができ、数秒で世界各地の人々と画面を通して共有できます。便利になったその反面、多様な文化、価値観に直接触れることもなく知った気になり、他国やそこに住まう人に対して偏見や先入観を持つてはいないでしょうか。

しかし、グローバル社会において日本が他国に対して閉鎖的になることはもはや考えにくく、我々の仕事や生活は益々海外の人との関わりが必要不可欠になります。だからこそ、無限の可能性を秘めている青少年には、世界にもっと目を向け他国の異なる文化や歴史の違いを知り、価値観の違いを受け入れ、相互に理解しようとする交流の機会が必要であると考えます。

青少年には、思考が柔軟な若いうちに、直接異文化に触れインターネットだけでは得られない、肌で感じる異文化と価値観を体験し、世界への視野を広げていただきたいと思います。

今後も、この素晴らしいパサディナホームステイプログラムを継続し更なる地域の国際化に向けて、本年も地域の青少年と共に多くのメンバーで参加し交流して参りましょう。

また、2020年度は、本来我々が渡米する年でありましたが新型コロナウイルス感染拡大の影響により訪問できませんでした。ですが、そんな我々をパサディナ青年会議所メンバーは今年も温かく迎えたいと言ってくださいました。そんな彼らの心意気に対してこたえ、昨年直接伝えられなかった分まで多くのメンバーで、訪問し感謝を伝え更なる友情を深めて参りましょう。

一年間よろしくお願いいたします。

基本方針

想いを届けよう

～繋がり大切さとまちを想う熱い気持ち～

専務理事 広報室担当 村田 晶哉

これまで地域の方々に対して力強い運動・発信をしてこられたのは、長きに亘り先輩諸氏が築いてこられた、地域の方々との信頼関係からなる繋がりがあったからこそです。その信頼関係を紡いでこられた先輩諸氏に改めて感謝を申し上げます。

春日部青年会議所が56年間行ってきた地域に向けた運動は、着実に浸透してきております。しかし、春日部青年会議所の存在は知って頂いているものの、私たちの運動の意義や、まちをよくしたいと想う熱い気持ちは十分に伝わっていないと考えます。

地域の方々に、私たちのまちを良くしたいと想う熱い気持ちを届けることで、地域の皆様が私たちに共感し、気持ちを動かすことができれば『明るい豊かな社会』の実現に向けて運動はより加速していくことでしょう。

そこで、既存の情報媒体を更に充実させ、地域の方々に、私たちのまちを良くしたいと想う熱い気持ちを発信してまいります。

また、今まで多大なるご理解ご協力をいただいた先輩諸氏にも、私たちの熱い気持ちを知っていただき、今後も変わらぬご理解ご協力をいただかなければ、地域への力強い運動発信は継続できません。

そのため、先輩諸氏に対しましても、広報媒体にて私たち現役メンバーの熱い気持ちを発信してまいります。

私たちが力強い運動を展開していくためには、行政、地域企業、関係諸団体との信頼関係からなる繋がりが大切だと考えます。繋がりが薄れてしまうことで、協力が得づらくなり、運動の発信力が低下し、私たちが目指す『明るい豊かな社会』の実現から遠ざかってしまいます。今までと変わらぬご理解ご協力を得るために、地域の皆様に対して一つひとつ丁寧に誠意をもって対応することで繋がりを継続してまいります。

本年度も LOM メンバーが、日本青年会議所をはじめとする各協議会に出向いたします。慣れない環境にいる出向者に安心感とやる気を持ってもらい、LOM にその経験を還元していただくために出向者への支援をしっかりと行ってまいります。また、各種大会・セミナーの詳細をはじめとする情報の受発信、ひいては設営側の想いを伝えることでメン

バーの積極的な参加を導き、学びへと繋げてまいります。

本年度、広報室として、組織の窓口として一つひとつ丁寧に誠意をもって対応し、地域の方々との信頼関係からなる繋がりを大切に、春日部青年会議所のまちを良くしたいと想う熱い気持ちを届けてまいります。

一年間よろしくお願いいたします。

子どもの未来創造委員会 基本方針

子ども達の未来に明かりを灯そう

～力強く生き抜くために～

子どもの未来創造委員会 委員長 濱島 辰也

昔は情報を得る為には行動しなければ知る事のできなかった時代から、近年の情報通信技術の発達や急速な技術革新によって、私たちの生活は様々な面で豊かになっていき、苦勞なくして指先一つで気になる事が解決できるようになりました。情報がより身近になったことによって、疑問を解決する為に大切であった自ら主体的に判断し行動する力が失われているのではないのでしょうか。また、子ども達の遊び方も昔に比べ変わっていき、昔は空き地があれば子ども達同士で考えたオリジナル性のある遊びを行い、友達同士外で遊ぶ事が多かった時代から、今ではインターネットを通して、いつでもどこでも友達と繋がる事ができる為、子ども達の遊びも変化し子ども達同士の直接的なコミュニケーションの場が少なくなっているように思います。

子ども達が生きていくこれからの未来は、今よりも更にスピード感を増し科学技術が発達し、今までの当たり前であった価値観は変化していく為、時代の変化に柔軟に対応していくことが大切であると考えます。時代の変化に柔軟に対応していく為にも、子ども達に自ら主体的に判断し行動できる力の源である知的好奇心を育むことが大切になってくるのではないのでしょうか。子ども達の知的好奇心を育むことができれば、今後新たな技術、価値観が台頭したとしても固定概念に捉われることなく、これからの予測困難な未来を力強く歩んで行ってくれると考えます。

そこで本年度の子どもの未来創造委員会では、子ども達に何故だろうと思わせる体験から、子ども達の知的好奇心を育む機会を提供してまいります。楽しみながら得る事のできる知識や実際に本物を見たり触れたりする体験から、目を輝かせながら貪欲に吸収し「もっと知りたい」「もっとやってみたい」という感情を刺激し、子ども達の知的好奇心を引き出してまいります。更に、親世代が色々なことに好奇心を持っていれば、親の持つ好奇心そのものが子ども達に伝播するようになり、子ども達の知的好奇心を育む重要なきっかけとなると考えます。

子ども達の知的好奇心を育むために、親世代と子ども達が一緒に楽しめる機会を提供してまいります。

また、AI の台頭などによって非対面式の接客など直接対面する場が無くなりつつある中で、AI には代替えできない力であるコミュニケーション能力が今まで以上に大切になってくると考えます。

子どもの未来創造委員会が考えるコミュニケーション能力とは、相手の感情を察する力や、相手に合わせる力、そして相手の心を満たす力が大切であると考えます。なぜなら、それらのコミュニケーション能力を持つことで子ども達は、良好な人間関係を築き、どのような困難な時でさえ、立場を超えてお互いに協調性を持って未来を歩んでいってくれると考えるからです。

その為に、人との関わり合いの中で、相手を思いやる事や、自身の思いや感情を表現する機会を提供してまいります。子ども達で協力し合い意見交換することで、自分とは違う考えに触れてもらい、相手の気持ちを考える事や、相手の気持ちになって物事を考え、相手への感謝の気持ちを育んでまいります。

本年子どもの未来創造委員会では、子ども達が生きる予測困難な未来に明かりを灯すべく、誰よりも子ども達を想い行動してまいります。

一年間よろしくお願いいたします。

【事業計画】

- (1) 次世代の育成に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2) 会員の交流及び資質向上に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (3) 会員の拡大に関する事。
- (4) 会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関する事。

共に歩む

J A Y C E E 育成塾 塾長 田中 寿興

公益社団法人春日部青年会議所は、愛する郷土の発展と人間性の向上という崇高なる目的を掲げ、昨年度の 2020 年度には創立から 55 年という節目を迎えることができました。

これまでの、時代に即した数々の地域に向けた運動は、「まちづくり」そして「ひとづくり」を行う運動体としての存在意義を果たし、ここでの学びをもとに、この春日部青年会議所から地域を牽引する実に多くの人財が輩出されてきました。

そして今まさに、時代は一年先も読み解くことが困難な時代へと突入し、そこに輪をかけるように世界規模で蔓延する新型コロナウイルスがもたらす、人々の生き方、働き方の急激な変化は、決してより良い方向へ進んでいるとは言い難く、むしろ閉塞感で溢れるこの時代に、どのような人財がこの地域には必要なのかという事が重要です。つまり運動体として存在意義が更に問われる、そんな時代だからこそ、この春日部青年会議所が、幅広い知見と、豊富な経験を兼ね備え、より良い方向へと主体的に行動していく、そんな人財を輩出できる唯一の組織で在り続けなければなりません。

では、そのような人財を育む為に、この組織にはどのような成長が必要なのでしょう。まずは今後の春日部青年会議所運動を大きく左右する、春日部青年会議所の目的を知る必要があります。何のためにという目的が分からなければ、目的に近づけるための具体的目標、更に目標を達成させるための具体的手段を見出すことはできません。また、そこで得られる自分自身の成長への効果のイメージが重要です。個人一人ひとりが自分自身の成長を明確にイメージし、目標を定めることによるその熱量は、地域へ向けた運動をより確実なものへと躍進させ、組織の活性化に結びつきます。そんな人財で溢れる組織は、運動体としての存在意義を築く、大きな土台となるでしょう。

更にその前提を踏まえ、運動の構築するにあたっての考え方、地域に存在する問題、課題を掘り下げる力を養うために、仲間から得ることのできる世の中の最新の情報に触れ、地域、組織、仲間の為に個人一人ひとりが出来ることは何かを考える機会を積極的に創出してまいります。

春日部青年会議所という場に身を投じ、そして偶然にも出会った生涯の友となる仲間とともに過ごす貴重な一年に、共によく話し、時にお互いを厳しく、そして尊重し合い、愛情をもって高め合う場とする。そんな一年とするために、塾という場において一人ひとりに全力で寄り添いそして共に歩み行動してまいります。

一年間よろしくお願いいたします。

【事業計画】

- (1) 新入会員へのオリエンテーションに関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2) その他新人会員に関すること。
- (3) スポンサーに関すること。
- (4) 会員の交流及び資質向上に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (5) 会員の拡大に関すること。
- (6) 会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関すること。

「^{げん}厳」を以って組織を支え、自らを律する

総務財務委員会 委員長 白石 博樹

春日部青年会議所は、1965年に設立され2004年庄和青年会議所との統合を経て、2012年に公益社団法人へ移行しました。今日まで「愛する郷土の発展」と「人間性の向上」を目的として運動を展開してこられたのも、多くの先輩諸氏から脈々と受け継がれてきた想いと弛まぬ努力の賜物だと考えます。その想いを受け継ぎ、これからも地域に向けた力強い運動を展開していかなければなりません。そのために、総務財務委員会としてメンバーの一人ひとりが活動しやすい環境を整える事が必要であると考えます。

40歳で卒業となる青年会議所活動において、それまでに学びを得ることのできる機会や活動を充実させる制度が多くあります。しかし、長く活動しているメンバーでさえ、その機会や制度を知らない、若しくは活かしきれていないのではないのでしょうか。そこで、春日部青年会議所の制度を知ることで、メンバーの青年会議所活動の充実化を図ります。更に、今後の社会情勢の変化に対応した制度を考えることで、メンバーがこれまでより活動しやすい環境を整えるきっかけを作ってまいります。

次に、これまで先輩諸氏が多くの時間を費やし議論を重ねた結晶であるデジタルアーカイブにおいて、必要な資料を探しやすく整備し、更なる充実化を図ります。また、メンバーの活動拠点であるJCルームにおいて、備品の整理・保管をすることで活動しやすい環境を整えます。備品や資料の管理を徹底することで、各委員会が活動しやすいようにサポートしてまいります。

また、私たちの活動はメンバーから頂いた大切な会費によって運営されています。その会費が適切に使われているかを審査する財務審査会議において、厳格な会議の運営を行います。その際、各委員会と連絡を取り各種書類作成等で生じた不明点のヒアリングを行い、解決へ向けたサポートを行います。また、会費の使途を明確にするための中間決算と年末監査においても一切の妥協をしない姿勢で実施いたします。

総務財務委員会が、各委員会のサポートを行い、下支えをすることで青年会議所が地域からの信頼を得ることができると考えます。

筆頭委員会と呼ばれる総務財務委員会が、組織の根幹としてしっかりと支えることでメンバーの一人ひとりが活動しやすい環境を整えることができると考えます。そのためには、これまで春日部青年会議所が大切にしてきた伝統や礼節を心に留め、自らが厳しい姿勢で臨み、他の委員会に気を配り、寄り添うことのできる委員会となるよう努めてまいります。

一年間よろしくお願いいたします。

【事業計画】

- (1) 定款、諸規定に関すること。
- (2) 総会・理事会の設営および関連資料の作成。
- (3) 会員名簿の完備、ハンドブック・名刺の作成。
- (4) 褒賞、表彰に関すること。
- (5) J C ルームの管理及び物品備品の保管、管理に関すること。
- (6) デジタルアーカイブ（各資料のデジタル化と管理）に関すること。
- (7) 例会・事業に於ける会員の出欠記録に関すること。
- (8) 会費の徴収に関すること。
- (9) 財務の管理に関すること。
- (10) 各委員会との連絡調整に関すること。
- (11) その他各委員会に属さない事項に関すること。
- (12) 会員の退会に関すること。
- (13) 会員の交流及び資質向上に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (14) 会員の拡大に関すること。
- (15) 会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関すること。

拡大交流委員会 基本方針

魅力を伝えよう

～交流から伝わる想い～

拡大交流委員会 委員長 細貝 透

春日部青年会議所は先輩諸氏の不斷の努力により、昨年５５周年を迎える事が出来ました。春日部青年会議所では地域の未来の様々な問題を解決すべく、設立当初より、「愛する郷土の発展と人間性の向上」を理念に掲げ、地域に対して率先して行動できるアクティブシティズンの育成に努めて参りました。この歴史の中で途絶えることなく継続してきたのが会員拡大運動です。春日部青年会議所の会員拡大運動は、もっとも直接的な市民意識変革運動と言われ現在でも脈々と受け継がれています。今後もこの運動を絶やす事無く、地域に向け発信して参ります。

春日部青年会議所では、現在深刻な会員数の減少が起こっております。ここ数年前では１００名を超えていた春日部青年会議所メンバーは現在６０数名まで減少しており、青年会議所運動や活動を多くのメンバーで展開して行くことが困難になってきました。

地域の多くのアクティブシティズンを育成し、地域のリーダーを育ててきた青年会議所メンバーが減少するということは、地域に対してより力強い運動が発信できなくなり、そして、会員の減少一番の問題点として春日部青年会議所の存続の危機や運動や活動を通しての「人は人で磨かれる」といった自己成長の機会や「奉仕」「修練」「友情」といった青年会議所の三信条を学ぶ機会も失われています。まずはメンバーの皆様と共に、春日部青年会議所の会員減少について、一人ひとりが他人事ではなく、自分事として捉えていただき、会員拡大に関心と問題意識を持ち、自身の想いや経験を入会対象者へ伝えて頂き、多くの春日部青年会議所の魅力を共に伝えていきましょう。

現在、新型コロナウイルスの影響により生活や仕事においても大きな変化がありました。対面での交流が感染拡大防止のため制限され、仕事ではリモートワークが推奨され、オンラインが当たり前となり、画面を通しての会話が多くなりました。このような社会情勢で交流の機会が減少していますが、人と人との交流は決してなくしてはいけないものだと考えます。なぜなら青年会議所運動や活動を通して、対面で実際に参加するからこそ、例会事業の素晴らしさや、そこに集まるメンバーの想いや価値観にふれる事で春日部青年会議所の魅力が伝えられるからです。だからこそ、新型コロナウイルス感染症等予測することができない状況ではありますが、感染防止を行った上での交流会も開催に努めてまいります。

また、本年度は新たな試みとして、春日部青年会議所メンバーへ入会対象者の情報共有をスムーズに行える仕組み作りや入会対象者に向けて、春日部青年会議所の運動、活動を知って頂く為の SNS ツールを構築していきます。

最後になりますが、本年度拡大交流委員会では新たな発信方法を取り入れ、まだ見ぬ多くの仲間に対して、人と人が交流することによって生まれる化学反応を起こしながら、春日部青年会議所の魅力を伝え、会員拡大へ繋げて参ります。

一年間よろしくお願いいたします。

【事業計画】

- (1) 会員の拡大に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2) 会員の交流及び資質向上に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (3) 会員の入会に関する事。
- (4) スポンサーに関する事。
- (5) 例会・事業のオブザーバー参加者の出席記録に関する事。
- (6) 入会対象者に関する資料の収集及び管理に関する事。
- (7) 会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関する事。

共に創ろう

～一人ひとりの意識がまちを創る～

地域創造委員会 委員長 板垣 浩太

私たちは「明るい豊かな社会」を築き上げるために日々運動しています。明るい豊かな社会とは当事者意識を持ち、自分たちのまちを良くしていこうという人々であふれている社会だと考えます。それは一人ひとり地域の一員であると自覚を持ち、ご近所の方と協力し、自分たちの地域を創っていくことだと考えます。

しかし、近年、私たちの住まう地域では核家族化の進行や単独世帯の増加、近所づきあいが減っていることや地域住民が一同で集まる機会が減少していることで、地域との関わり合いが薄くなっているのではないかと感じます。町内会の集まりといった地域住民が一同で集まる機会がありましたが、今ではそのような地域行事も減少しており、近所に住まう人がどういう人なのか知らなかったりするように思います。

このままでは私たちが住まう地域との関わり合いが薄れ、「我関せず」といったまるで他人事のような状態になっていくのではないのでしょうか。

そこで本年地域創造委員会では地域に関心を持つために、地域の人と人同士がつながることのできるコミュニケーションの場を提供していきたいと考えております。地域に住まう子どもからお年寄りまでを一同に集め、まちや社会の問題に対して、どうやったらより良い方向へと解決していくのか、意見を出し合い、話し合う機会を提供していきたいと考えております。そうすることで地域に住まう方々が共にコミュニケーションを図り、そのなかで生まれる共感、困ったときはお互い様だよねと言って助け合う共助の心を育み、自分もこの地域のことににかかわっているのだと感じていただけることでしょう。

また本年度は私たちの活動地域である春日部市、杉戸町、宮代町において市長・町長選挙が行われます。しかし、地域のトップを決める大切な機会ですが、投票率は大変低い水準になっています。そしてなぜ選挙に興味関心が薄いのかというと、政治や選挙について難しく感じたり、自分が投票しても変わらないだろうという先入観があるのではないのでしょうか。

その先入観を解消するために、地域の方々が一緒になって政治や選挙について学ぶ機会を提供していきたいと考えております。そうすることで、政治や選挙について難しいと感じたり、自分が投票しても変わらないだろうという状態から選挙とは身近なことであるとい

う意識へと変わり、選挙に対して興味関心を持ち、やがては自分の投じる一票がまちの未来を創っていくのだという理想の地域へとなくなっていくことでしょう。

私たちが青年会議所運動や生業ができるのは、地域の方々のご理解とご協力があって成り立っています。私たちもその地域の一員であるということを強く意識していきましょう。そして地域の方一人ひとりが地域の一員であるという意識に溢れ、地域の人同士が共感・共助し合い共に地域を創っていく運動を行っていきたいと思います。

一年間よろしくお願いいたします。

【事業計画】

- (1) 当事者意識の醸成により活力ある地域社会の創造に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2) 会員の交流及び資質向上に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (3) 会員の拡大に関すること。
- (4) 会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関すること。

魅力を知り共に創ろうパサディナホームステイプログラム

～今後社会で活躍する青少年のために～

国際交流委員会 委員長 横川 大河

パサディナと春日部の両青年会議所が理解と友情のもとに、共に築いてきたパサディナホームステイプログラムも今年で36年になります。長い歴史の中で両JCが築いてきたこのプログラムは、言葉の壁を越え、互いに相手を知ろうとし、相手を想いやる心の交流があったからこそ関わる人にこれまで多大な影響を与えて参りました。

しかし、現役メンバーの中でもプログラムに関わり訪問したことがあるメンバーは、本年度の卒業生を除くと僅か5名となります。このまま関わるメンバーが減ってしまい、プログラムの素晴らしさを現役メンバーに知っていただかなければ、互いに想いやる心の交流は徐々に希薄化して行ってしまう、地域にとって必要なプログラムを継続していくことは非常に困難な状況となってしまいます。

2018年私がこのプログラムに初めて参加してみて、空港に着いた際には、パサディナメンバーは私たち訪問団を久しぶりに会った友人かのように温かく接し、迎え入れてくれました。『それはなんとも言葉では表せないうれしいような心地いいような』とても不思議な気持ちになりました。そこで初めて、両JC間の36年間紡いできた理解と友情を認識し、改めてこのプログラムの素晴らしさを知ることができました。だからこそ今まで参加していないメンバーには参加して頂き、プログラムに関わることで自然と湧き出る感謝の気持ちをパサディナメンバーに伝え、今後も継続できるように更なる友情を築いて参りましょう。また、メンバーには、青少年の成長する姿をより近くで感じることでプログラムの必要性を感じてもらいたいと思います。

近年日本に住まう外国人も増加し、2020年度には約283万人となり、過去最高の外国人が現在日本に在住しております。日本は人口減少が進み現状でも多業種において人手不足となっております。外国人労働者もさらに増加していき、私たちの身近なところで外国人と接する機会も多くなってくるでしょう。これから社会に出る青少年達にとっては、他国の人との関わりなくしては今後社会で活躍することはできないのではないのでしょうか。同じ日本人でさえも育ってきた環境や年齢の違い、住んでいる場所によって価値観の違いが生まれてしまいます。ましてや生まれた国も歴史も文化も違う人たちとでは、なおさら価値観の違いから互いに解りあうことは簡単な事ではないと考えます。私は、他国の人と

解りあうには言葉だけではない相手を理解しようとする力が重要であることがプログラムの体験から解りました。

だからこそ、今後社会で活躍する青少年には、感受性豊かな若いうちに、このプログラムだからこそ得られる感動と価値観の違う人たちとの体験の中で、相手を理解しようとするコミュニケーションの力を育み、青少年の世界への視野を広げてまいりたいと思います。

メンバーと地域の青少年にとって、プログラムに参加するには様々な壁があります。その壁を越えてもらい参加したいと思って頂くために、まずは、魅力を知っていただく必要があります。そこで、実際このプログラムを経験したことがある私が、国際交流委員会にプログラムのすばらしさを伝え、プログラムの魅力を委員会で共有し、国際交流委員会一同、魅力伝道師となり、この素晴らしい国際交流事業をメンバーと地域の青少年に知っていただき、今後も継続できるようワクワクして参加したくなるように魅力を伝えてまいります。

一年間よろしくお願いいたします。

【事業計画】

- (1) 国際交流に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2) バサディナ青年会議所との交流事業に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (3) 会員の交流及び資質向上に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (4) 会員の拡大に関すること。
- (5) 会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関すること。

広報渉外委員会 基本方針

発信と継承

～想いを届け、信頼を繋ぐ～

広報渉外委員会 委員長 厚川 雅信

春日部青年会議所がこれまで56年もの長きに渡り、地域の為に運動を発信し続けて来られたのは、先輩諸氏が地域の方々を想い、信頼関係を築きあげて来られたからです。今後も、私たちも地域の方々との信頼関係を継続し、多くの運動を発信していかなくてはなりません。

近年では情報の発信が多様化し、春日部青年会議所もホームページやSNSなどを活用し、地域の方々へ運動の発信を行っています。

しかし、誰もが発信者になれるこの時代、今後もこれまで通り積極的に発信していかなければ、数ある情報の中の一つとして埋もれてしまい、私たちの想いは地域の方々へ届かず、私たちが目指す「明るい豊かな社会」の実現に近づくことが出来ません。

そこで、本年度は既存媒体を使い、春日部青年会議所の運動や活動、在籍しているメンバーのこと、例会や事業のことを記者のような立場で積極的にPRし、地域の方々に届くように情報を発信して参ります。

また、これまでもご理解とご協力をいただいている先輩諸氏の方々には、機関紙を通して、委員長やメンバーの例会や事業に対する想いをしっかり伝えて参ります。

私たちの運動は行政、地域企業、関係諸団体との信頼関係が築けているからこそ、ご理解とご協力をいただけています。しかし、その信頼関係が薄れてしまうと、春日部青年会議所の運動による地域への発信力を高めることが出来なくなってしまいます。これまで先輩諸氏が築かれてきた関係を継承していくためにも、誠意をもって丁寧に対応して参ります。

本年度も日本青年会議所をはじめとする各協議会へ、春日部青年会議所のメンバーが出向いたします。多くのメンバーで支援することで、出向先で活躍しやすくなり、そこで得た経験を春日部青年会議所に還元していただくことができます。私も経験から初めての出向は慣れない環境で多くの不安を抱えていました。その時に支えになったのは、いつも春日部青年会議所メンバーの応援や些細な声掛けでした。

その為、多くのメンバーで日本青年会議所をはじめとする各協議会の事業に駆けつけ支援して参ります。また、出向先に中々参加出来ないメンバーには、出向経験を生かし、参加しやすいようにサポートして参ります。

また、日本青年会議所をはじめとする各協議会にはセミナーや事業が開催されています。それに参加していただくことで春日部青年会議所の例会・事業とは違った学びを得ることができ、春日部青年会議所の運動や各自の社業に生かしていただくことができます。各事業の情報を正確に伝達することで、メンバーが学べる機会を提供して参ります。

最後に、私たちが持つ地域への想いは、胸に秘めていては相手には伝わりません。本年度、広報渉外委員会は、春日部青年会議所の各メンバーが持つ想いを一つひとつしっかりと地域に届けて参りますので、一年間よろしくお願いいたします。

【事業計画】

- (1) 専務理事の補佐に関すること。
- (2) 慶弔に関すること。
- (3) 広報に関すること。
- (4) 公益社団法人日本青年会議所、関東地区協議会、埼玉ブロック協議会との連絡調整に関すること。
- (5) 各種大会の案内・手配及び出向者に関すること。
- (6) 行政その他、地域の諸団体との渉外に関すること。
- (7) 例会・事業等に関する資料・写真・映像などの収集及び管理に関すること。
- (8) ホームページの管理に関すること。
- (9) 情報の収集及び提供に関すること。
- (10) じゃがいもに関すること。
- (11) 会員の交流及び資質向上に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (12) 会員の拡大に関すること。
- (13) 会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関すること。

じゃがいも 基本方針

じゃがいもを通じて出来た出会いや関係性を大切にしたい。

キャプテン 新井 健弘

ゴルフは老若男女が対等に競える数少ないスポーツです。止まっているボールを少ない打数でカップに入れる。文章で読むと簡単に感じるゴルフのルール。しかし、同じようにクラブを振っても、同じようにボールは飛んではくれない。そこにゴルフの難しさや奥深さがあると思います。

メンバーの皆様も、会社の関係者や友達から、一度はゴルフに誘われたことがあるのではないのでしょうか。

春日部青年会議所のじゃがいもゴルフコンペは、春場所と秋場所の年2回、春日部青年会議所のメンバー、諸先輩方、久喜青年会議所との交流の場として開催されてきました。プレー中は、普段あまり話す機会のない仲間や諸先輩方と交流し、青年会議所や仕事の話、プライベートの話などが出来ると思います。諸先輩方と1日共にプレーし、そこで得られる事は、自分自身の知見を広げる機会にもなります。様々な経験を今までされてきた人生の先輩、ビジネスの先輩として色々な事を聞いてみる機会として、メンバーの皆様にはじゃがいもコンペに参加して頂きたいと思います。

メンバーの中には、ゴルフを始めてみようと思っている方や、じゃがいもコンペにまだ参加したことが無い方がいましたら、今年私と一緒に参加しましょう。

本年は初心者の方にもコンペに参加出来るように、定期的に練習会も計画致します。まずは練習会で初めの一步を踏み出してみませんか？最初はうまくいかないと思いますが、ゴルフは交流するための一つのツールであり、スコアよりもじゃがいもを通じて出来た出会いや関係性を大切に、メンバーの皆様の今後の活動につなげられれば幸いです。

最後になりましたが、私は昨年春日部青年会議所に入会した為、本年がじゃがいもゴルフコンペ初参加になります。その私が長年続いてきたじゃがいもゴルフのキャプテンを拝命致しました。右も左も分からず、メンバーの皆様には多々ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、初心者経験者問わず、気軽に参加できる練習会や楽しいじゃがいもゴルフコンペが開催出来る様に努めてまいります。ご指導、ご鞭撻またご協力の程、宜しく申し上げます。

一年間よろしくお願いいたします。

【事業計画】

- (1) じゃがいも春場所の実施。
- (2) じゃがいも秋場所（一般社団法人久喜青年会議所との合同）の実施。
- (3) じゃがいも練習会の実施
- (4) 会員との親睦を図ること。

サッカー部 基本方針

相手を思いやり、助け合うことで人がつながる

サッカー部 キャプテン 豊田 敦志

私は、小学生の頃からサッカーに打ち込んで参りました。サッカーに限ったことではありませんが、どんなスポーツをする時もチームには様々な人達が集まってきます。私はサッカーを通じてチームメイトと共に切磋琢磨し合い、時にはチームの弱点を克服するべく意見を出し合い、皆で協力して目標に向かって様々な壁を乗り越えていくことを経験しました。

そして、そのような経験をサッカーというスポーツで得る中で、常に相手を想い、考え、仲間と助け合う事の大切さを学びました。この学びは、私自身、社会人になってからも活きているという実感があり、この学びを、より多くの方にして頂きたいと思っています。

本年度のサッカー部と致しましては、「相手を思いやり、仲間と助け合うことで人はつながる」を基本方針に、春日部青年会議所の現役メンバーだけではなく、先輩方やそのご家族やご友人、サッカーの経験の有無は関係なく、参加しやすい環境作りをして参ります。

サッカーをプレーする中で、相手を思いやるプレーや、敵味方関係なく助け合う心を大切にして、沢山の方達と心の交流の機会を提供して参りたいと考えております。

また、昨年度の新型コロナウイルス感染拡大防止の対策の経験を踏まえ、サッカーをテーマにしたオンラインでの交流会も考えておりますので、皆様のご友人やご家族をご同伴の上、是非ともご参加頂きますよう宜しくお願いいたします。

一年間よろしく願いいたします。

【事業計画】

- (1) 練習会の実施。
- (2) 全国大会への参加。
- (3) 会員との親睦を図ること。